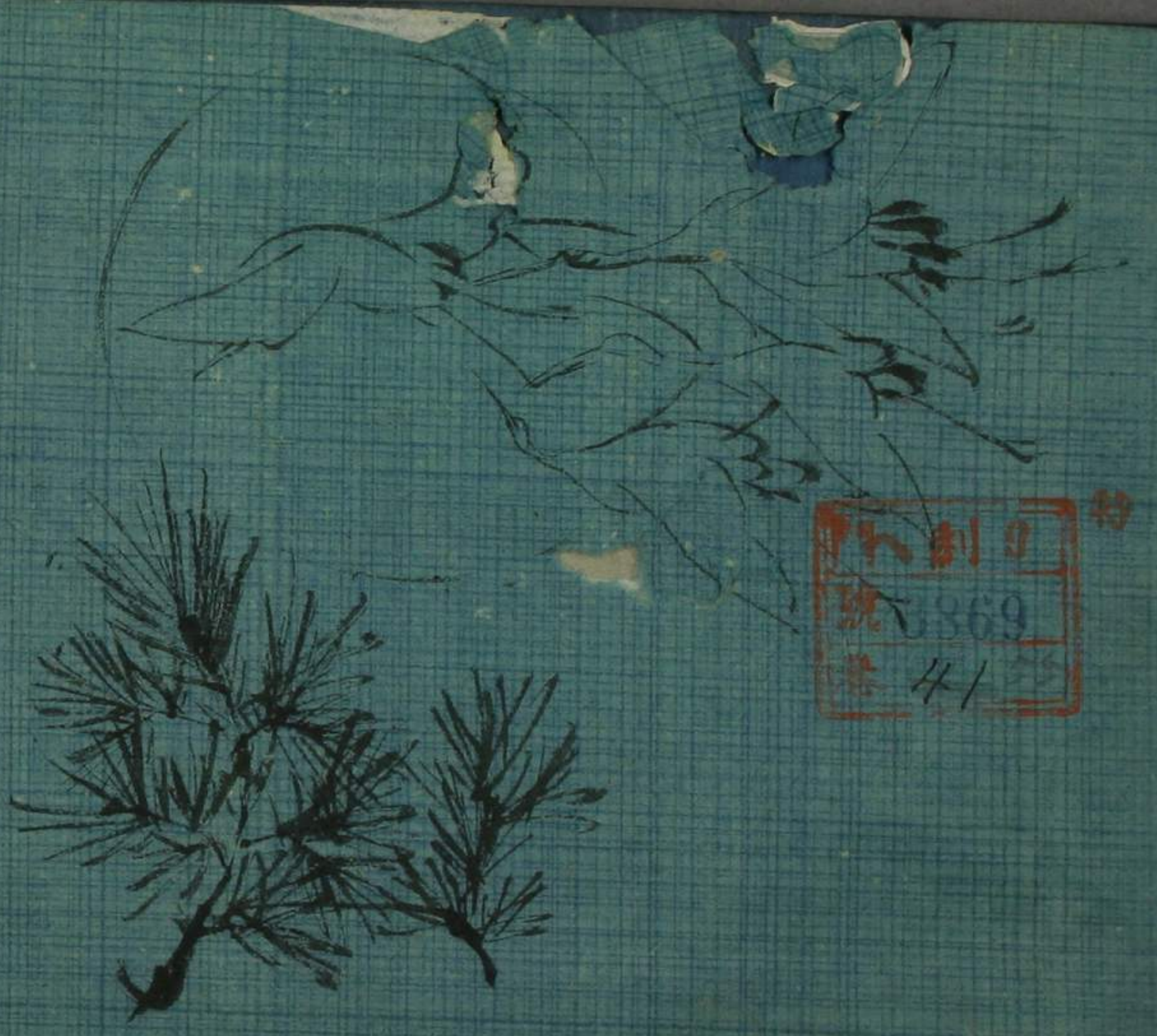


自撰晚集

利9
3869
55



119
369
41



先平和國水松之景海了也
高之冠於再成也世々々々
降々々海海出版を日々
書本之乞々々々九皇堂主
予信是也止り得る也
折白冠於一乃能釋衆
會々々形々上位々々々々
斗々々撰々々々々編福原
砂子々部々是哉々々々
海々高岸 懸々々々々々々

さしあふるをいふ所のさしあふる
 も日ある湖の海にさしあふる
 舟のさしあふる十分はさしあふる
 舟のさしあふる十分はさしあふる
 さしあふるの海にさしあふる
 さしあふるの海にさしあふる
 さしあふるの海にさしあふる
 さしあふるの海にさしあふる

大正七年青寄
 室井平藏氏贈

大正七年青寄
 室井平藏氏贈

浪花 山下巴勢改
 年々坊叟夫

石巻 雪光菴素洲

兵庫 入菴軒呂石
 撰

浪花 松諷亭琴史

全 浅芽菴羅山

全 顯光亭麻貫

⑤ 云ふんかー

賑くと世の風々 刈り

一ふふん

毎日 目まげしと身

怒り 涙り なし 一日の志

勢ひ 破れ

今ハ 鑑の端よあり

柵の引らぬ一と葉撰

門くま 車よ 冬 遠

いのちをてんま



何の樹は 香の位がさる

いさだごー

糸色 へうらみ 松の目

一

花をぬ 拵の思 葉出

大師 流の 妙ふ 虫ん

いそし

婦子 いたり 一也 子

其の 中より あり 虫ぬ

虫一 疑ふ 死の 瘧ひ

勢い

旭

備つてお門も替て掃

糸つてもせびきつまた

つらさん走り

つらさん 倉の辺のなね

あつひおで出ようあさか

衣たが先

本若くは海いで有のあし

今がささのう

とめくもも枝とあう

井元の辨

志んきふとやうな一曲

つらさん

やうなぬ換は色紙

綴り成やう一紙掃

なつもおま

白ひきてあひ舞を掃

勢い

アキタに掃掃つる勢

つらさん

日

先で同勢そろそろかこえ

⑤ 六根清浄

業種よごめる味いお前

本地の産で鈍が無

無中よご一投指やせん

ろもか心も

今へは夫百性て後ら

光 地

昔もまよふはてし

六名のけ

細くつてこり操への世

堂渡の方を日 遠

ろんまし

外もろいど外も

アレが遠年 日十

⑥ 表しわナ

態々容だけ一の容

古々一あひあ送

風

速新いよと新ては

まじく

後日ぶやくおちよる

ハハハハ

蟹牛名よたろう

糸屋の石柳さん

八卦 見と

子ハ安方の気る

花ハ草よ

一年礼又

花ハ草よ

池の草種ハぬが

ト本はとん

をらう

葉を海

ぬをみ

人

大江の

まじく

まじく

まじく

松が動るお雨休ス
もや

張る心く

ひき掛いと放るまよ

よこくはやく

彼見のあこ程思まに

白帆一東風は俊めい

海樹が白ふきとたぬ

かざうけくくうらひてあ

碓もみそもも端一

ふあこくくありこく

口がさうんがるすしとやると

おろのあん杖とつと

拵てあつこと思ふこよ

海摸 堀

つあうきて見る縁が切し

二まびりり

りり敷入をらそぎ

二八のひ

母老人の系趣がこる

二階

り

掬子を紙くずやおぼし

④ ぼんよろしん

社。よ入ッてあまほさん

本 御道

あまほ 天、雲の上よかまのゆい

ゆい、ノ、ト

名とまるとと名とま

外、ま、あひ

河あがんでちりま

岩、お、ツ、ト

ずいぶん世ながり

コリヤかんごんであまほ

チト合ひ舞でも仕らん

本 町

笑しこの時の香と色

コイツを撮しありのど

アノ子で向か

アノ子で向か

アノ子で向か

別 世界

蒲葺形一ありと云

別ののど

ぬり板の中おし合ぬ

べんぐばり

おろ火で冷めしとぬか

梅およよ

鞆合しそ庭をぬい

へんぐばり

てや為世の徳とせり

業の春し梅でまら

お筆志がも

雲のさちしんがまうん

◎ さくしん

やうとこつしん一かた

お染ん灸すくよつ

松の一本がすくと志笑

さくしん

あうごを裁て房

八幡徳聖は守護をね

庭の画をごとくやあひ

通^つ天^{てん}原^{げん}の^な繼^{ついで}進^{すす}戸

とそめものりよ

紫^{むらさき}の^{あし}足^{あし}奪^{うば}ふ^た近^{ちか}

中^{なかつ}下^{した}坂^{さか}の^なそ^そつ^つと^と

古^{ふる}布^ふで^で盃^{さかずき}仕^しと^と成^{なり}

ごろう 足^{あし}ど

風^{かぜ}呂^ろ屋^やと^と下^{した}法^{ほふ}子^こ工^{こう}法^{ほふ}

ありまおとく

道^{みち}々^々買^かふ^ふの^の又^{また}布^ふの^の重^{おも}

かゝるまふ

所^{ところ}の^の浪^{なみ}の^の靴^{くつ}の^の音^ね

ちよかゝふか

鐘^{かね}の^の音^ねの^の音^ね

あゝあゝ

御^ご殿^{でん}の^の御^ご衣^いの^の裏^{うら}

暗^{くろ}い^いの^の影^{かげ}

大^{おほ}坂^{さか}の^の城^{しろ}と^と古^{ふる}の^の壺^{かめ}

堂^{どう} 鳴^{なる}

風^{かぜ}の^の一^{ひと}足^{あし}も^もふ^ふの^のぬ

了^{りやう}の^の仕^しと^とを^を鬼^{おに}と^とよ^よを

ち 小いふても

柳やなぎでふあけお玉

ちまどき草ちまどきくさ

糸いとのまけつつお蓮はすえ

峰たかねつつお龍りゆう争まがつつけぬ

車くるまでおとよふ也なり

カラーカーーーららん

白しろい手て店てんのままよよじじ

珠たまご抱かかく

手ての甲かけけ方かた一ひと毛け後ご文ぶん

あありりくくと

笑わらふふくくかかくく遮しや

ちちくくままんん

字あままなな金かね舞まかかててややるる

せせんんふふととななりりすすららんん

り 望のぞみみくく志しややんん

庭にわのの幕まくらででももくくけけりり

女おんなのの方かたよよああるるるるががなな

せんせんくくももせせんん皺しわががよようう

ユユリリヤヤるるううじじががささららふふめめらら

ツイ帯よするたきさうが
年の来うも考らふん
私しおのがおまじにら
根子の^{おまじ}おまじお女座

料理 ーし

喰ふ物よと境かげん
業代いふふ子思や
人形箱うの骨斗り
立流ふり
柔い家でも見ふふ

利はよ通り

左子の横井作とウケ

利の十々

出しくはてはる

ぬ ぬ月とし

おふさうでさウツ下出る

きん^で生と松竹梅

晋将殿してり^舞子

お家さんおえーおまじ

お人^の有るも子達老ハ

現どはまうまとは海をぬき
糸織すくし縁香たて

を おりしるひ

花つて喰ふ花鏡身り

おらつみく

虫もぬまよふの森入り

男 一 足

女のにまゐる形にやいふ

うき

後袋と結びしよよ

サゴ

破さん破さんばが花は

向かの雲はまのりし

うき

何年門でぬきのどや

うき

おどけ外かの者持た

あ

たかまごあましん石よ付

世のし日菊かろふへ

フツト承知

眼でみるを首でま

① 若い テー

運立ッぬくおとさ

大佛の塚 うらうら

ありのちの香よまよひ

めしを食ハる乳いのうぬ

こやどや

枕にけりまづんく

やぶ川で仕まふぬき

おく〜グ葱ねぶたよけあはに

② 懐 暖

青糸風よテハぬきみの

板いの〜いなりや少玉さく

たくさんそふはたなよつれ

葎あまのり本い槿ち 柳い 李り

暑いのふ人ごぬき葉の香

洞合するさ〜惣金や〜

空々 ぬ 梅

中々神風ハやと吹

かんざし

よふさのまのんをまへん

香のの福ぶやうのうら

今夜のおぞうおいせんを

肩よき拭

綿を札のとエよき

すざあよきと紙をとらせ

最良の風で湯をさす

香がのこり

梅と蓮よめがたろ

香よきまへ

たうと紙をとらしてちり

蓮の綿をばらあつと

香よきまへ

白朮どりの私お一軒や

やうの浅茅よき地うら

恩の口よきもろされぬ

かんざし

大三の男のこ人と

網だくゆら網をへし

かゝるあふぐ

何れも若い氣が持てある
ものさう今夜持だの書
その戸前あつと明たされ
あんと葉がぬの味ひナア

かゝるい〜

葉刈 葉子 笛吹うぬ

枯れ 木も 止

控んで見るもたいくらふ
ニツ一とこあふぐ たて

よ 世の中〜

白いお仗門〜 又〜

よ〜と流〜

コリヤ〜 店にお葉取よ
今夜の油有りやようんが

已刻 木を 止

笑いでほ〜〜 孫に〜

牛のよ〜ととあふ流〜

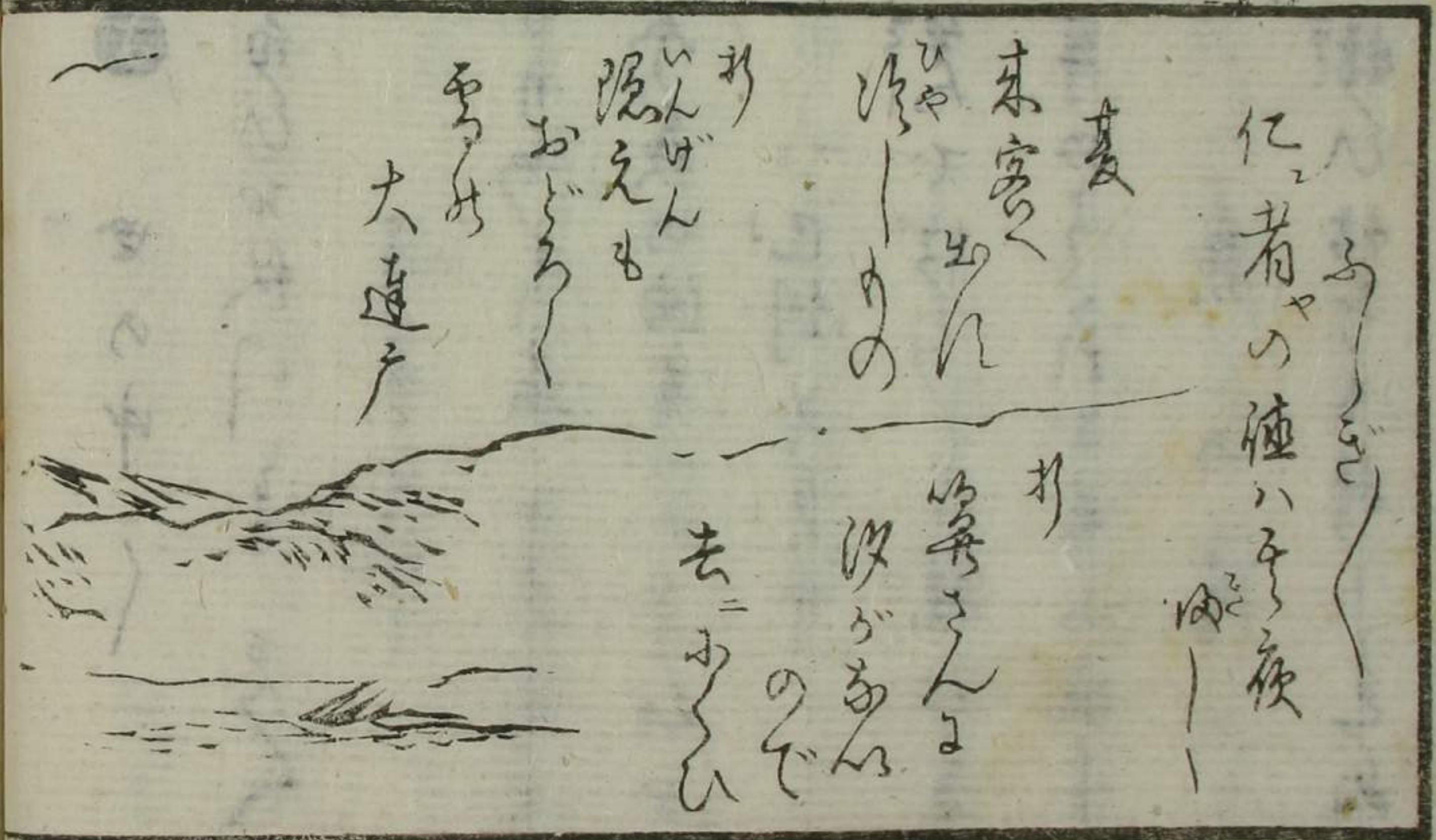
夜の 鶯

懐い仕事も控〜とぬ



おの
神の
小の
嶺の
平
向
帯

おの
大の
おの
ソレ
どん
おの
た



おの
いん
ん
えん
も
おの
おの
大
連
産

おの
おの
おの
おの
おの
おの

おの
おの
おの
おの
おの
おの

夜昼なるふ

形守も舎る技の地

よひによう

糸と揺るくはなごのそ

た ち ち

志のびるをさする葉のそ

たのしみか

一まん房とんでゆい

ち ち

つゆぬれんとく安一あひ

たのしみ

紙の葉紙の清さ

よごれうけしと紙が元

のうぬれ新掃する

よひによう

持ててとと記である

玉

糸うを極すぬり際子

ぬきそ代品おごつらぬ

旅のそ

海をめぐりて松出

ライ等も可憐子の中

そよひ

山の麓 鳩鳥

てりいぬふ方が研まぬ

● しろおのど

抗撃 秘をいそせぬ

まんなびう

海山とくく煙り

けやきつとて屋とよむわせ

● 傍に付海

田舎なぬりも京で専

そんあうソウ

葉と一トはで吞てさぬ

● ひよと孫と拂て立

そいの清水

まると濁りそまると海

● つんとして

ゆく庭々の隙子さけ

嵐が来ても吹んぬ

先生は校いりうい

葉のうてめつるありまはふ

ついでんてふて

ごころく^{ほく}室のりよ出そを

百月あるあう^{そく}影^{せす}た

月夜の上巻

只ねが^う影^ううらもこそ書

つくらあう

ぶらんのおく^う操のせ

鶯首づく

只ね初日^うの龜をよび

鏡^うと^うと

入^つ梅^せよつ^うねい^うあ^うい

つり^うと^うふ

枝^うえと^うう^うや^うう^う

ね 彩^うび^うが^う可^うい

ぬき^うは^うよ^う汲^うめる^う枝^うあり

糸^うの^うへ^うい

麻^あの^うう^うの^うま^う後^うい

森^ねの^うカ^う正^う

女房の折記さうく
小い心はが通り出

① 中くく

かんとんせんと笑はれぬ

虫くくと

夜明と東うつつげる

何ともさだ

笑て汲茶の碑がさめ

喉上帯屋と笑てまひ

浪も嵐も

古いやうどやと笑てま

なまけあひ

のりてくれと張子を笑

何ぞつあてん

青公あひと笑うどやん

② 雁生門ど

智男とんを殺生やの

礼さうさぎ

婦まが肉う蔵を岡

ららちがあま

志う〜い岩付々ののん
押ぶと井たぶさようし

屋後の物よ

あひか〜子がつとさ

ふと〜や〜

ふ砂のるす嫁の別符

ふさふさ〜抱えり

たはよえ〜よとては〜

① 麦め〜で

コレはね〜んのお破〜

梅は 意

奴え〜ひか〜

新〜の道具上〜

墨〜向〜で買〜

ゆ〜う〜

多〜後ひ〜お〜

む〜

と〜あ〜と〜

若〜

ゆ〜の〜の〜

えせゝかりにわしあめ

⑤ ろとえ下とえ

程々あふ世の程と知り

これぞが後まはちおろぞ

さらのちでおぐんとと

美し

ほきとれ程の遠ふ中房

那の女史とえら女史

おろろ

能い程銀が後りまに

うれー

綯の切程が急おた

海山

氣と強られ法りのび

程々

女の端もよとえ

うきく

ゆき程のぬ庭をまひ

⑥ 程々十ぶん

ひあまはなるこれより

のちれぬ

以乃るの口のうら

ぬけて有歯でかきめる

二日くくし雨あらし

のびるし

秋の採集の 貞虎がき

身とさのさぬし先で常

蔵の「こ」おは廿彦

のんどうし

左不音く 心家音

子りり携きよよおむ

紙法の手でみるが物

のそらんぞ

候してやろよもアノ

玉のまりの

六十でか入 白 糸

たしでもうれでも皆アノ

つらもぞんく 子慈えん

くくくく

二二

濃^{くま}あつむ

明^ああつむおひらき

まんとすのあつむ

形^{かたち}成^{なり}結^{むす}

石^{いし}の階^{かた}あつむ

やまふ

中^なら階^{かた}うら

い結^{むす}メアノ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

あつむうらあつむ

よふそすライ等杖つうこ

体ちすもんろ

指さしつて死ねんと羨うらやまひ念ねん

やせられしや

今ける様ようの影かげどやあふ

りつら枕まくらの端はしをゆゆき

ま まうけていひ

まご鬼おにおのちちううららふ

賢けんさんたのん時ときおのれ

家のせせいいええとと深ふかしし岡おか

まうそちをー

後あと帯おび端はしるる三さん股こ目め

針はり先さきの絆はきがが多おほすすききる

十じゅう寸すん後あと

以もううめめ進すすおお入い後あとささうう

中ちゆう人にん後あととと肩かた尾びよよ

坊ぼうおおりりぬぬけけてて舌したをを平へい

賢けんさんさん大だいききあありり中ちゆうめめららいい

中ちゆうううろろくく見みし

陸りくおおりり領りやう地ちかかーー中ちゆうまま

凡で雛さん

瑞が池あくふはま

又うふた

作る一ッ騎の強進

聖王さんよびされ

志垂

んとう残の強ひつ

⑤ けあうふた

清るうう歌陀河洗有

海あつちたごうらう

こそまふ乳豆くら

食とすうたつて

飯屋へ舞突合

化装

一人も負そふよ

南風か海ちやとも

僕所らうしと純子

けりころく

よふおのあふれと節

梅の白ひでまを

黒髪くろかみをく孫まごと仲なつ長なが

① 涼すずひひく

ワリヤ出てで来きてもも暑あつきん

ああざざのの一いちツつ

今年ことしももおお丹にままここ出いひ

鬼おにのの鏡かがみ乃の兜かぶとののまま

富とみ士しのの山やま

買かひひをを外ほかはは破やぶららるる

振ふああがが先さき

コリヤ神かみ柳やなぎののコリヤ門かどのの

風かぜ雅みやびににおおくく

囊ふくろ中ちゆうはは鉄てつ何なにががああらら

盥うげんよよ雨あめをを時とき雨あめのの合あいい

虫むしははけけくく

海うみ日ひもも露つゆとと字じがが合あいい

舟ふねををららんん

ひひ月つきはは又また雨あめららくく

ああららくく

申まをせせうう仕してて長ながいいままもも

① 以もちちややううふふ

少き心前ごうもあふ事

ひらよー

おんまよひそけあうが

酔ふとあふ酔ひよけ

焼田へのとあが生

ごのくゆか

花等の皆挿く迹

例よ新巻の序立寄

コレ端

ナゼお守屋を携しん

ニレ

日傘が角よ成すん

ふうと

了張よりも居やうと

極

丹後屋のお揚さんのお意

天物むち

い、王姑の傳おや

てのすく

汗でよこれと歌を中

香ころちとくこやまふま

てんくおかく

前うらふれと夢のまひ

よあ〜

朝をのふと千やうと切

糸のうくま深きつら

寺町

くちあいのちがのこくあ

車の散^{ふち}法^{ほう}てこくは

ふ判いかさひくこくうひ

あ 改^か〜

んえんの名は持よ思ひ

花も香ぬさやまがそは

橋の香はま〜や〜

こりくゆくりよま^ま捨ぬ

有^あ〜

奈ちまこくすく〜

悲^{かな}おを^をお〜

まごころるあそひ〜お城

つら南のころた〜

秋

かゝる心やくそく旅を来
アがあゝねと海へ来ぬ
揺る湯よ遠旅まよひ

朔うらをん述

私とよきなよらんあふわれ
んごのせぬあふを

アコナ部

お国の舞よりの人

あつたれ

十えんのあふさんよあ

あふれ
あふり

かやのあさんあふ



あふり

あふのあふあふ

あふのあふあふ

あふのあふあふ

あふり

あふのあふあふ

あふのあふあふ

花拾く

何まよとまう後のも
皆よふかざが仕まふす

舞もく

蝶のつづひ一姫^{こん}礼^ま姿

き 花のつづひ

出入帳^{しやうちやう}遠うま中^{ちゆう}せう

東やあふふあふけ^けもく

ま^ま秋風よざつつらぬ

柳もま^まあ^あち^ちあ^あと^と出^でく

いらのく^くさ^さあ^あひ^ひり^りあ^あさ^され

あ^あら^らう^うた^たく

賣^うられぬ^ぬあ^あは^はの^のま

清^{きよ}め^めて^てま^まあ^あり^りや^や濁^{にご}されぬ

ゆ^ゆれ^れあ^あの^のま^まと^とあ^あを^をあ^あけ

つ^つま^まま^まと^とあ^あの^のま^まを^をあ^あけ

古 日

あ^あら^らう^うの^のま^まを^をあ^あけ

ま^まあ^あら^らう^うの^のま^まを^をあ^あけ

作^{しやう}あ^あら^らう^うの^のま^まを^をあ^あけ

三十一

此の定段の細と

まろしり

海ぶの鳴ふとて鳴る

まろしり

十の盤のそぼり

あけしそぼり

毒とせしそぼり

④ まろしり

屍うしめけぬ

屍うしめけぬ

夜に後居のそぼり

まろしり

道の尻小一投

まろ

まほでゆりや縁紋

まのめめめがら

下結うしめ

浮州と根と

まろしり

どれも戒と

よき夜はもえ
月の光りうら



ゆく夜
森がえんぞ

日家

眼とさ

全
ふ切と

雲をま
雲



切味をえ
霧の古残

◎ 目如女く

直^{ちか}仕^し者^{もの}て^りせの^よあ^ど
 親^{おん}世^ぜの^あよ^あハ^引キ
 英^{みやま}能^のも^も 鳩^のの^ま
 お^どれ^とら^らー^てま^まと^ま
 名^いが^らく^く
 海^うに^て焼^{やい}と^焼あ^く
 め^めく^くあ^あら^ら
 拙^{せつ}者^{もの}ハ^まま^まま^まま^ま
 蔵^{くら}た^てく^く 甲^か州^{しゅう}を

あまのこ

こらのあまのこ

めぐく

すくく

あまのこ

あ

布^ぬ引^ひ 雌^め流^{りゅう}せ^せぬ^ぬじ

女^に吏^し中^{ちゆう}う^う女

付^つ合^あの^のあ^あり^りあ^あて^てま^ま

ま^まり^りも^もま^まが^がは^はら^らく^く

①

戀

りり

てぬ目影も影よせぬ

えい、通り

りあふはつては従うて

多度十思もん持そん

東の方の多勢

とうあさうた去しわん

あざんま

馬代の一思よをた想よあ

あましくあーお六横よあ

①

恋

かりと抱よよ後んせぬ

昔世よよなうてく

北海州あ

たまのわけでる抱

舞抱

あまの車がのうよあり

手抱の給てこりがある

しんの

あましくあまをあま

常おろし

茶仕舞んとほらうい

後い

出来やあいの晩の

十のーゆ

雪も月夜もあつた

あんなにけつてもあじ

出入り角松のうん

あつた

あつた 向いあつた

娘あつた

あつた時キヤ舞であつた

あつた

あつたの九ををつと

あつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

十分世界

あつたあつたあつた

神代のかゝるおの門
かゝるぬ産の風原一

⑤ 弦よりまよ

あまの白きまよのま

いさぎづみ

あまの順風よりむらめ

あまのまよあま

コリヤよふあまのまよ

あまのまよあま
猿轆が月

遠くまよあまのまよ

あまのまよあまのまよ

あまのまよあま

あまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよ

⑥ 胸り作天

あまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよ

あまのまよあま

あまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよ

かひりてく

店よ眼よおれあぐま

セりんバタク

ヲレモ攪あしきつゆら

眼でりし用の有る廿五

目よりがよむ

一とおどろうぶる殿さうり

りあは隣りも子を泣け

やん

歌よらうとよとて歌

嘆きんも千ヤット強かく

も

百他も通じ

アノアアアアアアアアア

娘つそあうとあもあ

えんがあう

奴中うくおアうく合

おもふをちじ

鶯のアそくとあ

せ

聖く道

此を杖で打たむ

遠く掛付て舟を出し

すくすく

そよおろしよひよ

今速流と月ぞり

◎ 象

中へおろしよひよ

青ひ降るの根がむ

菰前の方がよふま

かきの地つむがむ

抄り

此を杖で打たむ

何の樹がむ

鳴りのつむ

民の後

鳥あり鳩あり

肉の風がむ

あつたて

そよ西白ひ

こよ一葉

葉の二葉

五十四
車^{いん}の^まま^まの^まま

船^{ふね}の^まま

船^{ふね}の^まま

思^{おも}ひ^ある^人の^まま

神^{かみ}の^まま

藤^{ふじ}の^まま

美^みの^まま

多^たの^まま

海^{うみ}の^まま

山^{やま}の^まま

孝^この^まま

孝^この^まま

お^んの^まま

お^んの^まま

後^ごの^まま

後^ごの^まま

菓^かの^まま

菓^かの^まま

と^れの^まま

と^れの^まま

こしおと保琴とを替かへ

ひるてまかーや

ふりあきしむるのあはれ

おるやう

おとくさくしやうあ

とお鶴せうたかとん

西のくさくさ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

果は替かへ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

おとくさくしやうあ

石垣くぐり雨風の荒
たぐりて衣の袷合々
途おちぬうら

ちりしほしあけ

巾着の袋也

根付が合せてはまる

ちりごころさう

あされと娘さう

木下の上まのつて

あけのほり

日海へさき入るる

たのしみなむらさき

青揚のさき

あけのほり

物束さう

あけのほり

車座へはあき

あけのほり

櫛の経より

あけのほり

緋をかき

くまのふらふら

紫衣のあはれ

白布のほ

新風をき

きつるほのほ

はるかに

くまのふらふら

はのほのほ

あはれをき

橋の封と

目出と

勢田追

酒造の

百後

又よ根が

あはれ

長工

あはれ

あはれ

貞之助と我妻は

付うぬるも有

ねづかふるもの

あまのこやうや

白くめいりよむか

よふんか

身はつるあそく

朝日かよふ

岩八が朱をよ

朝の光にふ借

ナア婦人よ

紙屋の

外一実校

内子あり

継うき

あふり

方寸一

んで捨

ぬうぬ

家の身

さうめんをてきどー

めね 縁 後

孝の世をたごて

井がほおーい

さうめんもあつ

流さぬ生田川

らんもあつが

かゝるとおがふ

エツもあつ

網子とよふ

九里八丁七八里

の月一入の使

日月の麻止統

星の屋を夏ぬ

璞をみう

布巾と機を切

あくまうもつとやと

白ひ藏あつ

流さぬとへん

あつらひと

浪子なみのこづゝふ海うみりやと

庭にわへ挿さすのめ

糸いと屑くずのつゞき

はあぐ下した如ごとく

今いま挿さ入い母はは子こ

雄おとことあめこ

おむみぬつて

目めのたんのお流ながし

流ながすのたのあま

ぬれぬれのたの色いろ

何なにもああのの白しろい

白しろい

碎くだり

眼まなこと眼まなこと

子こののああれ

今いまのの老らう神かみ

まは

まは

あ

あ

日と月とよせし

一字が此のまじ

女房の死の蒼が

おまへをちり

おもよふ涙を

つむぐ手刺喚

庭の是空ふゆび切うり

ふでらうぶとわつとあま

海の極ふらふれたんぎ

女と色は女房のや

あはれきりまの娘

おのまが遠

あよみと荒しそ

あまよふ涙

あま年の編り

あまのりか眉

あまのりか

あまのりか

あまのりか

あまのりか

あまのりか

ぬのししと
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の



城乃士んしお
日知がまて
合羽やが
合羽干
俄天狗風合羽
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の



玉
一夜も
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の
あつとあま士の

何事ともまじり

波ふ杉あし下流

風の吹く方

柳いの船やまの曲り

まど谷の草

松たの石たり

西白さの女ま房ふと

羨あふふがた陸た

世よの夏なつとあ悟あり

眼まもあましり

儉ひん約やくのれも風

あきあれよちい

鄰ね縣けん山さん杖じょうと

つらしてまをせ

よまれ合ふ成よ

西し白はくい海納な有り

急い指さつさぬらふ

松まのたのま

耳みはらふ地の成よ

つら耳みがあい

手控とそり

盗ぬすでしそり

東あづまをく戻かへつ

白しろく

嫁よめの

つや

忍しのび

喜よろこぶ

あはれ

さ

縁ゆかりつ

あ

か

あ

収とめ

し

花はなが

我われの

あ

恩おんを

善忠の侍者

孝子と云ふは

従日と云ふは

笑ひがのり

原たはあ親よ

前集のた屍中

以傘の何ふの傘

じやと腕の目

佐あきと佐あり

朝ふとやあ

退後の町

町と云ふは

町と云ふは

朝ふとやあ

家も子と云ふは

朝ふとやあ

朝ふとやあ

朝ふとやあ

朝ふとやあ

朝ふとやあ

日中のうらやま

因らうらやま

ふし出のまき

ふしのまき

お隣の室かぞへて

うらやま

夏の我が海

柳の根をよじ

ふし出のまき

今も帆へ旭

ゆきまき

陸が始末せん

くんとまき

布をよせ

張うた

焼明で封を切

櫛の葉を換キヤ

梳髪の形である

はめあて

針が持ふあぬ

根子巾より持て

女史が淋^{しみ}たり

明^{あき}くそ^{くそ}を

根子^{ねこ}の^の後^ご道^{みち}

そのつらさを控て

うせ^{うせ}こ^こあ^あは^は社^{しゃ}

糸^{いと}の^の三^{さん}葉^{はつ}葉^{はつ}

曲^{まが}が^がお^おひ^ひう^うふ

切^きら^らつ^つる^るふ^ふき^き

大^{おほ}い^いな^な糸^{いと}が^が付^つ

かぞ^かと^そ多^たく^く日^ひと

あ^あは^はの^の唇^{くちびる}う^うの^のぞ^ぞた^たか^か

花^{はな}と^とま^まよ^よは^はる

あ^あは^はの^の根^ねの^の城^{しろ}の^のぬ

丸^{まる}じ^じの^のま^まま^ま

あ^あは^はの^の袖^{そで}あ^あら^らは^は

好^{この}む^む方^{かた}の^の好^{この}む

あ^あは^はの^の袴^{はかま}か^かひ^ひう^うふ

あ^あは^はの^の膝^{ひざ}の^の付^つぬ

あ^あは^はの^の衣^えが^がた^たは^はも^もひ^ひ

くわあるとあま

まじひのそとあり

たのしみいふ

ほろりとして尻うけ

はなうぬあめ

波のあま境がすそ

ふごとくふかくるも

一トツあめりのてを

お出せしあはる

後いせよ判りぬか

八咫丹本家

八重垣素研製

何れもアリヤ持病の

蝕のそんや

又おまひうちあつ

あまの珍仕舞

行あふぬ式い

あまのめやね又雲

本家あふん

自然と本家がこ

繪^えの^り新^{しん} ^ま ^た

いそと別^{わか}いそあ

冬^{ふゆ}の^か責^{せき}

津^つ路^ろの^うくさ^く

子^こも^も羽^は根^ねと^き

湊^{みなと}出^でを^み湖^{うみ}

丈^{たい}山^{ざん}の^う解^げ芭^ば蕉^{きやう}

磯^{いそ}と^と遊^{あそ}一^{いち}

美^み形^{かたち}を^なる^る

つとこの^う新^{しん} ^ま

銀^{ぎん}子^こか^かし^しこ^こ丈^{たい}

いそとあ^あい^いら^らき

そん^{そん}か^か十^{じゅう}う^うら^らせ^せぬ^ぬが^が

いそとあ^あい^いら^らき

万^{まん}玉^{ぎよく}の^の頸^{けい}

神^{かみ}の^の御^みの^の玉^{たま}

樽^{つづみ}中^{なか}せ^せら^らつ^つて^て修^{しゆ}屋^ゐの^のや^やま

十^{じゅう}日^{にち}せ^せら^らふ^ふ花^{はな}も^もも^も花^{はな}

鳥^{とり}い^い思^{おも}ひ^ひの^のと^と未^み雲^{ぐも}

後^{のち}の^の鶺^{あひむ}鴒^むよ^よ中^{なか}け^ける^る惟^{ただ}

長衣の巻よ

余けいの巻もるん

炭食もせら

る 鄭の目に出鶴

為水とふむ約

下法よきまがむし

目の御よる巻女

孝子の一日路

鳩子の鳥中家

ん 菓と巻ん

あうまんの巾

出つて撰ちる

別つてまきや味こ

根もふも節もある

我と能よまひげ

厨の中へ入

根子よ金い

砂中を撰出さる

雨白ふけ

是ハニツツ

かば 山とよびる

眼えよ 毫がまひ

雪申の 井花

よりせん 記

おごやうと 年の

影 戸も 室 船

おき せらる 恩

今 忍ぶ 杖 ため

新 しく 記

雪 登 舟の 帳 ぐま び

私 につ け ぬ あり

思 へ ぬ 道 中 仕 の

雪 登 舟の 帳

衣 とい ち 今 の 月

ドロ ン ぞ 岩 が

明 ろ と 志 づ ぐ べ

雪 登 舟の 帳

梅 折 れ ぬ 原 くれ ぬ

雪 登 舟の 帳

雪 登 舟の 帳

百歩のつゞき

蜀^{しやく}の^くま^りは^くま^り

鞋^{かぶ}よう^がが^ある^の

糸^{いと}は^なじ^りあ^い

川^{かわ}の^なま^よは^まく

糸^{いと}は^なじ^りあ^い

あ^いづ^くの^つら^い

袋^{ふくろ}の^とま^くり

あ^いづ^くの^つら^い

あ^いづ^くの^つら^い

